



「希望郷いわて」の実現を目指して

岩手県知事 達増 拓也

一 はじめに

社会経済情勢が著しく変化する中、雇用や地域医療などの喫緊の課題への対応が求められる一方、将来を見据え、グローバル化の進展や人口減少・少子高齢化への的確な対応、地域社会を支える人材育成などについて、長期的な観点から、地方として主体的に取り組んでいくことが重要です。

こうしたことから、岩手県では、希望あふれる岩手を実現していくため、おおむね十年後を展望し、県民一人ひとりがこれからどうありたいかを考え、みんなの力を結集し、それぞれの希望に向かって行動していくための羅針盤として、昨年十二月、「いわて県民計画」を策定しました。

二 いっしょに育む「希望郷いわて」

県を取り巻く社会経済環境が大きく変化する中であっても、岩手らしさを見失うことなく、主体的に世界に通用する地域の独自性を発揮していくことが重要となります。

このため、計画では、「ゆたかさ」「つながり」「ひと」を岩手の未来を切り拓く三つの視点として掲げ、独自の価値にあふれた岩手ならではの「ゆたかさ」を守り、はぐくみ、また、人と人、人と地域などの「つながり」をはぐくむことよってその価値を高め、さらに、岩手ならではの価値を守り、受け継いでいく「ひと」をはぐくんでいくこととしています。

また、計画の基本目標として、「いっしょに育む『希望郷いわて』」を掲げ、「県民一人ひとりが、共に支え合い、いきいきと働き、安心して暮らし、楽しく学んでいくことのできる希望あふれる社会」を目指します。

三 平成二十二年度の重点施策

平成二十二年度当初予算は、直面する喫緊の課題に全力を挙げて取り組むとともに、希望郷いわての実現に向けて力強く歩み出す一年とするため、「希望維新」希望郷いわて元年「予算」と位置付け、前年度当初予算を上回る積極型の予算として編成しました。

《直面する課題を克服して「希望」へつなぐ取組み》

依然として厳しい経済・雇用情勢を踏まえ、雇用の創出と就業の支援のため、ふるさと雇用再生特別基金事業などによる雇用の創出に向けた取組みを進めるとともに、新卒者等の就職支援を始めとした就業支援に全力で取り組めます。

また、地域経済の活性化に向け、高度技術者の育成や地場企業の技術力向上支援等によるものづくり産業基盤の強化、中小企業者への円滑な資金供給などに取り組めます。

地域の保健医療体制の確立に向け、医療を担う人材の養成や、病院勤務医の勤務環境の改善等による医師等の確保、ドクターヘリ導入支援や地域医療を支える救急搬送ルートなどの道路改善などに取り組めます。

加えて、人口の社会減に歯止めをかけるため、産業振興によるいきいきと働く場の確保創出や、定住・交流の促進、子育て環境の整備などによるセーフティネットの充実などに取り組めます。

《「希望郷いわて」の実現に向けたスタート》
「いわて県民計画」に基づく最初の確かなステップを踏み出すため、さまざまな分野で、岩手の未来を拓く視点として掲げた「ゆたかさ」「つながり」「ひと」を育む「ため」の「呼びかけ」「きっかけ」「仕掛け」などの基盤形成を進めます。

また、計画に掲げる「希望郷いわて」の実現に向け、「産業・雇用」「農林水産業」「医療・子育て・福祉」「安全・安心」「教育・文化」「環境」「社会資本・公共交通・情報基盤」の七つの政策分野における取組みを着実に進めます。

さらに、新たにスタートした四広域振興局体制の下、総合力・機動力を発揮した広域振興圏の確立に向けた取組みを進めます。

《岩手県「援隊運動」の展開》

地域主権改革が本格化する中、県・県職員が既存の枠組みを越えて、独創力と行動力を発揮しながら、県民の皆さんと一緒にクリエイティブに活動する取組みとして、昨年十一月に「岩手県「援隊運動」を開始したところであり、「希望郷いわて」の実現を支える「ゆたかさ」「つながり」「ひと」をはぐくむ活動として推進していきます。

四 おわりに

県民の仕事や暮らし、学びのそれぞれの場で、さまざまな困難にも前向きに取り組んでいく先には必ず希望があり、また、力強く行動する一人ひとりが、岩手の希望となります。

このため、「いわて県民計画」の推進に当たっては、県民はもとより、企業、NPO、行政など、地域社会を構成するあらゆる主体の総力を結集し地域の価値を高めていく「地域経営」の考え方に基づき、「希望郷いわて」の実現に向けた取組みを進めていくこととしています。

こうした、県民一人ひとりが主役となった、主体的な地域づくりを推進していくことよって、この岩手から地域主権の実現に向けた取組みを実践していきたいと考えています。